

小学校における給食指導の現状と課題

磯部 由香・田中 里奈・平島 円

Current states and problems of giving guidance on elementary school lunch activities

Yuka ISOBE, Rina TANAKA and Madoka HIRASHIMA

要 旨

学校現場で行われている食育に関する様々な取り組みの中で、毎日繰り返し行われる「給食の時間」での指導は、極めて重要な役割を担っている。そこで、学校現場での給食指導の実態の把握を目的に調査を行った。その結果、給食指導における一番の課題は偏食に関する指導であることが明らかになった。偏食の課題は多様なため、指導方法の一般化が困難であり、給食指導マニュアルへの記載もほとんどなかった。アンケート調査および文献から偏食指導の事例を収集したところ、その手法は様々であった。今後は、教員個人の経験や能力に左右されず、すべての教員が効果的な偏食指導を行うため、様々な事例の蓄積とデータの共有が重要になると考えられる。

1. はじめに

学校現場での食育を進めていく中で「生きた教材」といわれる「学校給食」の時間における指導は、極めて重要な役割を担っている。「学校給食」は、特別活動の学級活動に位置づけられ、平成20年には食育推進の動きを受け54年ぶりに「学校給食法」が改正された。学校給食法の中には学校給食の目標として、「健康の維持増進」「食習慣の育成」「社交性および協同の精神の育成」「生命・自然の尊重・環境の保全」「勤労を重んずる態度」「伝統的な食文化」「生産・流通・消費への理解」の7つが挙げられている¹⁾。

しかしながら、教員養成段階で食育の指導に関する教育が不十分であること、子どもの食の課題が多様であること、学校全体で給食指導を行う際に多忙である担任教諭への負担が大きいことなど、給食を活用して継続的な食育を行うことが困難な状況にある²⁾。また、学校給食は教育活動の一環として位置付けられているが、教科と異なり、学習指導要領に具体的な指導方法は示されていないため、給食指導は個々の担任に任されている³⁾。

そこで、給食指導の実態を把握するため、三重県内の小学校の栄養教諭・栄養職員および教職員へのアンケート調査を行うとともに、小学校で作成されている「給食指導マニュアル」を収集し、分析を行った。ま

た、小学校および特別支援学校の教職員へのアンケートおよびインタビューによる調査、文献による事例収集を行い、効果的な給食指導の在り方を検討した。

2. 方法

(1) 栄養教諭等を対象とした調査

2015年5月に三重県内の栄養教諭、学校栄養職員および学校栄養補助員(以下、栄養教諭等)を対象に、給食指導に関するアンケート調査を行った。回答者の概要を表1に示す。回答用紙は郵送にて配布・回収を行った。回収部数は73部、有効回答数は100%であった。

調査内容は、「担任教員の給食指導の様子」「給食指導について教員から相談を受けた内容」「給食時の子どもの特に気になる様子」についてである。「給食指導に関する教員からの相談」および「給食時に気になる子どもの様子」については、自由記述で回答を得た。得られた記述は『食に関する指導の手引き』⁴⁾に記載されている給食の時間における食に関する指導を基に作成した12の指導項目(表2)に分類した。「担任教員の給食指導の様子」については、12の指導項目の実施状況を「多数の教員が行っている」「半数の教員が行っている」「少数の教員しか行っていない」「すべての教員が行っていない」の4つから選択する形式で

回答を得た。

(2) 小学校教職員を対象とした調査

2015年1月～4月に小学校の教職員を対象に、給食指導に関するアンケート調査を行った。回答者の概要を表1に示す。質問用紙を各学校に配布し、回収を行った。回収部数は70部で、有効回答数は69部であった。

調査内容は、これまでの給食指導において困難に感じられたことの具体例と解決策について一人につき最大3例、自由記述で回答を得た。また、特別支援学校教諭1名に偏食指導に関するインタビュー調査を行った。得られた回答を12の指導項目(表2)により分類した。

(3) 給食指導マニュアルの収集

2015年9月～11月に小学校15校から「給食指導マニュアル」を収集した。記載内容を分析し、12の指

表1 調査対象者の概要

		栄養教諭等 (人)	一般教職員 (人)
性別	男性	0	23
	女性	73	46
年齢	20歳代	24	17
	30歳代	20	22
	40歳代	21	15
	50歳代	8	15
	教職員歴	10年未満	41
	11～20年	11	8
	21～30年	13	18
	31年以上	19	6

導項目(表2)の有無を確認した。

(4) 倫理的配慮

アンケート調査およびインタビューについては、対象者に研究目的および研究内容を伝え、個人が特定される形で利用することはなく、研究のみで使用することを説明し、同意を得た上で実施した。

3. 結果および考察

(1) 小学校での給食指導の現状と課題

① 栄養教諭等から見た担任教員による給食時の指導

栄養教諭等から見た給食時の小学校の担任教員の指導の様子の結果を図1に示す。12の指導項目うち9項目については7割以上の学校で「多数」および「半数」の教員が行っていた。「6. 安全・衛生」および「9. 給食当番・片付け協力」については97%、「7. 教室の環境作り」については88%、「10. 環境への配慮」については87%の学校で「多数」または「半数」の教員が行っていた。一方、指導している教員が少ない項目は「11. 食文化」「3. 食品・栄養バランス」および「5. 食べるスピード」であり、「少数の教員しか行っていない」および「すべての教員が行っていない」割合はそれぞれ55%、46%、45%であった。以上の結果から、給食時には12の指導項目をすべて指導することが望ましいが、実際には指導内容に偏りがあることが明らかになった。

② 給食指導における困難点

栄養教諭等が給食指導について教員から受ける相談内容を表3に示す。「4. 偏食」に関する相談が43件

表2 「食に関する指導の手引き」⁴⁾により分類した給食時間の指導における指導項目

項目名	指導例
1. マナー	食器やはしのもち方、食器やはしの並べ方、食事中の姿勢
2. 会食	食事の場にふさわしい会話
3. 食品・栄養バランス	食品の名前・種類・働き、栄養バランス
4. 偏食	好き嫌い、少食、残食
5. 食べるスピード	食べるスピード
6. 安全・衛生	身支度、手洗い、食中毒・感染症予防
7. 教室の環境作り	明るく和やかな食事の場づくり、楽しくゆったりとした食事グループづくり
8. 盛り付け・配膳	盛り付け量、盛り付け方法、配膳方法
9. 給食当番・片づけ協力	準備・片づけへの協力
10. 環境への配慮	牛乳パックのリサイクル
11. 食文化	和食、郷土食、行事食、特産物
12. 感謝の気持ち	「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶、感謝の心

小学校における給食指導の現状と課題

と最も多く全体の5割以上を占めていた。具体的な相談内容の多くは、好き嫌い、残食、少食についてだった。「4. 偏食」以外の11項目についてはそれぞれ5件以下であった。また、12の指導項目以外に「給食時間のルールをどうしたらよいか(4件)」「指導方法を学んだことがないのでわからない(2件)」「給食指導の基本を知りたい(1件)」という内容があった。大学における教員養成時の授業内容や新規採用時の研修内容について検討する必要がある。

教職員が給食指導において苦勞したことや困難に感じられたことは「4. 偏食」が52件で全体の約45%を占め最も多かった(表3)。そのため、教員から栄養教諭等に寄せられた相談の中で最も多い指導項目だとわかった。具体的な事例を見ると、個々の児童を対象とした個別的な内容が多く、様々な課題が挙げられていた。次いで、「9. 給食当番・片付け協力」が16件(約14%)、「3. 食品・栄養バランス」「5. 食べるスピード」「12. 感謝の気持ち」がそれぞれ7件(約6%)であった。この調査ではそれぞれの困難点についての解決策を自由記述で回答を得たが、ほとんどの事例について何らかの解決策が記述されていた。つまり、教職員は試行錯誤しながらも、改善に向けて指導していると言える。

③給食時間の子どもの課題

栄養教諭等から見た給食時に気になる子どもの様子を表3に示す。「4. 偏食」が28件(約29%)と最も多く、教職員にとって最も指導が困難と感じる項目と一致していた。次いで「1. マナー(25件)」であり、食するときの姿勢についての内容が最も多く、箸の使い方、持ち方や食器の扱い方に関する記述も見られた。その他、「3. 食品・栄養バランス(9件)」「5. 食べるスピード(8件)」「6. 安全・衛生(8件)」などの項目も挙げられた。

以上の結果から、子どもたちの給食時間における最も中心的な課題は「偏食」であり、教職員や栄養教諭等に求められる給食指導の内容は「偏食」に関することが大部分を占めていることが明らかになった。

④小学校の給食指導マニュアルの内容

15校の小学校から収集した給食指導に関するマニュアルの分析結果を表4に示す。給食指導マニュアルに12の指導項目すべてが記載されている小学校はわずか1校であった。また、半数以上の小学校でほとんどの指導項目が記載されていない。本来、給食時に12の項目すべてを指導することが必要であるが、ほとんどの学校ではマニュアルに記載されていない項目

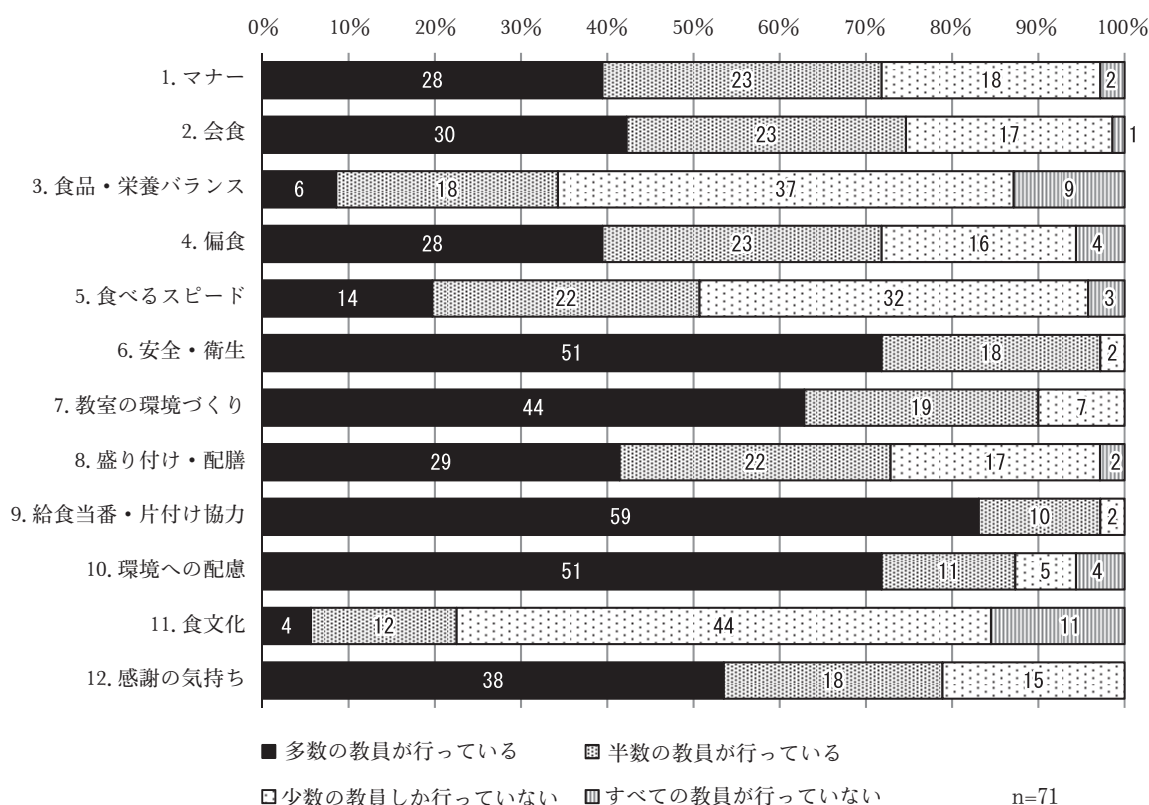


図1 栄養教諭等から見た小学校における給食時の担任教員の指導の様子

があることがわかった。「6. 安全・衛生」「9. 給食当番・片付け協力」「10. 環境への配慮」の項目について、10校以上の小学校で記載されていた。これは、上述の栄養教諭等の調査結果（図1）で明らかになった担任教員が行っている指導項目と一致している。すなわち、学校全体でマニュアル化されている指導に関しては、多数の教職員が実施しているとわかった。しかし、「9. 給食当番・片付け協力」の項目は多くの学校で給食指導マニュアルに記載がされていたにも関わらず、教職員が給食時に困難と感じている指導項目の上位であった。このことから、マニュアルへの記載内容が不十分であることが考えられる。一方、「4. 偏食」

の項目について給食指導マニュアルに記載している小学校はわずか2校であった。前述のとおり、「偏食」指導は給食指導で最も困難と感じる項目としてあげられており、個々の児童・生徒への対応方法は多岐にわたるため、個別指導方法のマニュアル化は困難であり、教職員は個々の経験から偏食指導を行っている様子がかがえた。そのため、経験の少ない教員が効果的な指導を行うためには、有効な指導事例の提示が必要であると思われる。

(2) 偏食に関する指導内容

今回の小学校教職員に対するアンケート調査に加え

表3 小学校での給食時の子どもの様子および給食指導の課題

給食時間における食に関する指導項目	給食指導に関する教員からの相談内容（栄養教諭等）		これまでの給食指導において苦労したこと、困難に感じられたこと（教職員）		給食時に気になる子どもの様子（栄養教諭等）	
	件	%	件	%	件	%
1. マナー	3	3.6	4	3.5	25	25.8
2. 会食	0	0.0	3	2.6	0	0.0
3. 食品・栄養バランス	4	4.8	7	6.1	9	9.3
4. 偏食	43	51.2	52	45.2	28	28.9
5. 食べるスピード	5	6.0	7	6.1	8	8.2
6. 安全・衛生	3	3.6	2	1.7	8	8.2
7. 教室の環境づくり	0	0.0	4	3.5	1	1.0
8. 盛り付け・配膳	3	3.6	4	3.5	2	2.1
9. 給食当番・片付け協力	3	3.6	16	13.9	1	1.0
10. 環境への配慮	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11. 食文化	1	1.2	1	0.9	2	2.1
12. 感謝の気持ち	0	0.0	7	6.1	3	3.1
13. その他	19	22.6	8	7.0	10	10.3
合計	84		115		97	

表4 小学校の給食指導マニュアル記載内容

項目名	A校	B校	C校	D校	E校	F校	G校	H校	I校	J校	K校	L校	M校	N校	O校	学校数
1. マナー	○	○		○	○			○				○				6
2. 会食	○	○				○		○								4
3. 食品・栄養バランス	○		○		○					○				○		5
4. 偏食	○		○					○								2
5. 食べるスピード	○	○		○	○	○	○	○	○							8
6. 安全・衛生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			12
7. 教室の環境作り	○	○	○	○		○	○		○		○					9
8. 盛り付け・配膳	○	○	○	○			○		○							6
9. 給食当番・片付け協力	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			12
10. 環境への配慮	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			10
11. 食文化	○															1
12. 感謝の気持ち	○	○	○	○			○									5
項目数	12	9	8	7	6	6	6	5	5	4	4	3	3	1	0	

○印：記載あり

特別支援学校教員へのインタビューから得られた計71件、および文献事例報告^{5~11)}から得られた20件の偏食に関する指導内容を分析し、類似する内容ごとに分類した。大きく分けて、「食べ物・食べ方に対するアプローチ」、「子ども自身への働きかけ」および「子どもを取り巻く環境の改善」の3つに分かれた。指導内容ごとの件数を表5に示す。食べ物そのものや食べ方に対するアプローチとして、最も多かった指導は、「量を調節する(32件)」であった。配膳する量を減らして少量から食べさせて徐々に食べられる量を増やしていくという指導が多く、なかには自分で食べる量を決めさせて、決めた分量は完食するという指導するという事例もあった。同じような内容として、「食品を小さくする」指導(4件)があった。これにより、食べることができたという達成感や自信を持たせることにつながり、徐々に嫌いなものを食べることができるようになると考えられる。また、嫌いな物から食べさせる、好きな物と嫌いな物を交互に食べさせるという「食べる順番」を工夫した指導(5件)もあった。

子ども自身への働きかけとしては、「ほめる・認める(8件)」「声かけ・励まし(7件)」という指導があげられていた。一口でも食べることができたことを大げさにほめたり、一口でも食べるように声かけをしたりしていた。その他、表やスタンプなどを用いて達成度を目に見える形で評価する「自己評価させる(6件)」、栄養の知識から好き嫌いのデメリットを説明する「知識を与える(5件)」、食べ物や調理員への感謝の気持ちから好き嫌いを改善しようとする「感謝の心を持たせる(4件)」という方法もあった。

子どもの環境を変える方法としては、給食の時間が楽しくなるような「雰囲気づくり(6件)」やクラス全体で残食の「ルールを決める(3件)」が挙げられた。

表5 偏食指導の具体的内容

項目	指導内容	件数
食べ物・食べ方に対するアプローチ	量を調整する	32
	食べる順番を考える	5
	食品を小さくする	4
	温める	2
子ども自身への働きかけ	ほめる・認める	8
	声かけ・励まし	7
	自己評価させる	6
	知識を与える	5
	感謝の心を持たせる	4
子どもの環境の改善	雰囲気づくり	6
	ルールを決める	3
その他		9

以上の調査から、偏食指導には様々な手法があることがわかった。すべての子どもに対して有効な指導方法は無いが、様々な事例を蓄積し、これを試行することにより、改善に導く可能性があると思われる。

まとめ

栄養教諭および教職員への実態調査の結果から、給食指導における最大の課題は、偏食に関する指導であるとわかった。各学校の給食指導マニュアルの分析によると、偏食に関する指導の記載はほとんどなく、個々への対応の多様さから指導方法を一般化できないという事情があることも明らかになった。一方、今回の調査対象となった教職員の多くは、偏食の改善に向けた様々な指導を実践していた。このような指導方法は、各自が試行錯誤する中から見出してきた方法であると考えられる。教員個人の経験や能力に左右されず、すべての教員が効果的な偏食指導を行うためには、様々な事例の蓄積とデータの共有が重要になると考えられる。今後は、より多くの指導事例を収集し、現場で活用できる指導事例集を作成し、発信していきたい。

*本研究を遂行するため、アンケートにご協力いただいた教職員の皆様に感謝する。

参考文献

- 1) 文部科学省：「学校給食法」
- 2) 生島博之：「給食指導に関する臨床学的研究」愛知教育大学教育実践総合センター紀要, No.13, p.217-224, 2010
- 3) 布川和恵：「教育課程における学校給食指導の変遷」現代社会文化研究 No.59, p.83-100, 2014
- 4) 文部科学省：「食に関する指導の手引き(第一次改訂版)」
- 5) 生島博之, 細江逸雄, 萩野裕二, 丹羽詔一：「被虐待児の学校場面における支援に関する調査研究」, 子どもの虹情報研修センター, 平成19・20年度研究報告書
- 6) 霜田浩信, 橋本創一, 菅野敦：「知的障害生徒に対する給食の食べ残しへの自己評価による指導」, 東京学芸大学教育実践研究センター紀要, 第3集, p.35-40, 2007
- 7) 岡山県教育委員会：「平成25年度 栄養教諭を中核とした食育推進事業報告書・特別支援学校における食育の取組」p.65-83, 2013
- 8) 中川深：「偏食の激しい児童の給食指導」, 茨城大学教育実践研究, No.16, p.213-220, 1997
- 9) 静岡県教育委員会：「自閉症の指導 研究実践集」p.11-12, 2006
- 10) 岡綾子：「知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症児に対する学級担任との協働による偏食指導」, 関西学院大学研究紀要人文研究, No.64, p.243-260, 2015
- 11) 西井孝明：「知的障がいのある児童への給食指導について

での研究～質問紙調査に基づく指導困難の実態と基本的な
指導法の確立を目指して～」三重県立稲葉特別支援学校、
平成 26 年度小学部研究報告書，2015